



リフォームの美学

新装なったザ・カハラの客室を覗く

文：リリー・ストーン 写真：カイル・ローゼンボーク 翻訳：神林敬里

最高な客室は魅惑的で親しみがあり、簡素である反面、居心地がよい。室内に入ると安らぎを感じると同時に、新しさの中でゆったりと心行くまま、未知の空間を満喫することができる。最高な客室とは、冒険と憩い、さらに心機の一転を演出する舞台なのである。

変化だけでさえ永久であり、不断であり、不滅である。
アーサー・ショーペンハウアー

ザ・カハラは創立当時から、他とは格が違うホテルで、1960年代の始めに建設されたとき以来、最高のレベルを目指していた。間取りがゆったりとして、豪華で、愛らしく、面積6エーカー半（2.6ヘクタール強）に広がる敷地で、1エーカー当たりの客室数は50。その頃、1エーカー当たりに200室が詰め込まれていたワイキキとは、対照的である。部屋そのものは、最低でも縦横が16フィート（約4.9メートル）×20フィート（約6.1メートル）と広く、1室にかかった費用は、当時としては桁外れの3万3000ドル（1188万円）。高級とされていたホテルの客室でも、その半分の費用しかかからなかったという。

有名なカリフォルニアの建築家で、クリエイティブ・ディレクターでもあり、ホテルの建設を監督したエド・キリングスワースさんは、「様々な過程で、数え切れないほどの課題で決断を下さなければなりません」と話している。

しかし、キリングスワースさんによると、決断の一つひとつが重要な役割を果し、夢のような構想を実現させることに貢献した。そのあと数年間で、ザ・カハラは世界で指折りのホテルに発展。フランク・シナトラ、ジョン・ウェイン、インドラ・ガンジーを始め、世界中から数え切れないほどの有名人を迎えるようになった。ホテルの素晴らしさは定評になり、比類のない人気を呼んだ。

ホテルの創業当時に示されたそのような革新性は今も変わらず続いており、卓越を目指すあくなき努力と献身の最も新しい例は、客室を完全に改装するプロジェクトにみられる。

ザ・カハラの常務取締役、ジョン・ブランコさんは、「格式があり、歴史の深いこのリゾートが築いた伝統と遺産にふさわしい状態に還元させることが目標だった」と説明した。「改装にあたっては、ホテルの歴史に最大の注意を払いました」

ブランコさんはさらに、改装計画の背景には宿泊客に贅沢さと高尚さの真価を味わってもらおうと同時に、居心地の良さを確立する狙いがあったとしている。

「優雅でも温かみがなければ、傲慢（ごうまん）としか映らない。そのため、お客様がリラックスでき、親しみやすい環境の整備を常に心がけています」

何カ月にもわたる計画、デザイン、工事のあと、ザ・カハラの新しい客室は現在、ほぼすべてが完成している。最初に受ける印象は、人を包み込むような優しさ。室内には、明るさや美、清潔さ、秩序など、人間を幸福にさせると同時に、調和をもたらすため条件が、すべて揃っている。その基になっているのは、部屋のセッティングだ。真新しい、天井から床までのガラス張りのスライディングドアを開けば、真っ青な海や緑したたる山の景色。至る所に南洋の色彩や太陽の輝きがあふれ、澄み切った青空が広がっている。

客室は外側の環境を取り入れるようにデザインされた。これだけ素晴らしい立地条件でありながら、それを利用しない理由はない。そういう背景に加え、室内そのものでは、細かい部分までに完璧な気遣いが感じられる。

ブランコさんは、「部屋の体験をできるだけ豊かにするため、最も繊細でユニークなアプローチだけを採用して、細部に気を配りました」と強調した。それらのアイディアには、プルメリアとジャスミンなどの香りを混ぜた、他ではみられない、ザ・カハラ独自の贅沢な花の香気が含まれている。このリッチな香気は、世界で屈指の香水メーカー、“フローリス・オブ・ロンドン”がザ・カハラのため、特別に造りだしたものである。

“フローリス・オブ・ロンドン”は、青々とした故郷に満ちた香りの思い出を胸にイギリスに渡ったポルトガル人移民、ホアン・ファメニウス・フローリスによって18世紀に創立された。フローリスはオイルやエキス、揮発保留剤の混合を開始。香水が間もなく英国上流社会の頂点にまで行きわたるようになると、女王の香水製造者に指名された。

それから3世紀が経ち、フローリスの香水は世界中に知られる、優れた品質の代名詞となった。ザ・カハラのテーマ香気は石鹸やローション、シャンプーなどに込められて各部屋に用意され、その一つひとつが、ホテルを取り巻く花と同じような、生きいきとした香りを秘めている。

ザ・カハラでは文字通り、香気が肌にしみ通る。シャワーから出たときに身体を包んでいるのは、ホテルを彩る花園のエッセンスにほかならない。

客室の改装に貢献した有名な会社はフローリスだけではなく、世界で最高質のリネン製造会社、“フレッテ”もそのひとつだ。ミラノに本社を構えるこの会社の製品は、創立わずか20年後の1881年にイタリア王室のご用達となった。その後も500以上にのぼるヨーロッパの名家や、ロンドンのサボイ、パリのリッツ、ニューヨークのプラザ、さらに香港のペニンストラなど超高級ホテルのためにリネンをデザインしている。

ザ・カハラのためにフレッテが考案した新デザインに反映されているのは、ホテルの南洋的な雰囲気と不変性。海と空の淡いブルーと雲の白さ、暖かい大地のブラウンを取り合わせたシーツには、デリケートな花の刺繍が施されている。生地はエチオピア製のコットンで、スレッドカウント（打ち込み本数）は310だという。

「最高質のベッドを探しました」とブランコさんが強調するように、ベッドそのものも、他のホテルとは格段に違う。「構造がしっかりとしたシーリー社の製品で、素晴らしいマットレスが使われています」

進歩の美学とは、変革の中に秩序を保ち、
秩序の中に変革を保つことにある。
アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド

新装なったザ・カハラの客室にはどこもかしこも、期待通りの心づくしが、思いがけないタッチで施されている。柔らかいシェニール織のローブは豪華で、ラタン（藤）のアクセントが加えられた天井のファンが、熱帯の情緒をかもし出す。シャワーヘッドは普通より大きめで、豊かなモンスーンの雨を連想させる。

壁に掛けられたテレビは最新式のLCDフラットスクリーン。気になければ目立たない反面、40インチというサイズは、部屋を劇場に転換させてしまうほど大きい。コーヒーメーカーには、ザ・カハラのスペシャルで、コナ・スマトラのブレンドが準備されている。クッションには貝の模様があしらわれているほか、カーペットには華やかなハイビスカスのパターンが愛らしい。

「熱帯的な雰囲気と居住性、ゆったりした感覚とエレガントさをミックスさせるのが狙いでした」とブランコさん。一例として壁の絵画を指差した。「温かさを加えながら、部屋を明るくしたかったんです」。そんな意図は、ロウソクの灯火とリッチなアイボリーをミックスしたような色の壁と、スイスコーヒー色の縁取り、さらにスピリットホワイトの天井で表現されている。

壁には、太平洋地域で最も高い称賛を受けている2人のアーティスト、ジョン・メルビル・ケリーとポール・ジャクレーの画がかかっている。ケリーはカリフォルニアの出身で、ボクシング選手と新聞のイラストレーターという経歴があり、ハワイに渡ってきたのは1923年。最初は1年間だけ滞在する予定だったが島々に魅了され、結局は芸術活動を行いながら残りの生涯をハワイで過ごした。ポリネシアの日常を描いた数々の作品は高い称賛を受け、現在でも人気は衰えていない。ケリーの作品はポリネシア文化を象徴して明るく、ザ・カハライメージにぴったりだ。

ジャクレーはフランス人で、作品では南洋のイメージをフィーチャーしたが、制作には日本の木版画の手法を用いた。20世紀の前半に有名になり、高く評価された作品はエリザベス女王二世からグreta・ガーボまで、社会の幅広い層で所有されている。ジャクレーの作品は幻想的で美しい色彩にあふれ、のどかだった当時のハワイと、ザ・カハラの雰囲気とを反映している。

変革を拒む人は、衰退の創造者である。

ハロルド・ウィルソン

トッド・シャーマンさんは改装計画の設計者であると同時にプロジェクトのマネージャーも務め、すべてが潤滑に進むように取りはからいながら改装を監督してきた。シャーマンさんから話を聴くと、新しくなったもののうち、目につかない部分が、表面に表れている部分と同じぐらいに重要なことが分かる。

ポップコーン天井（モルタルを吹き付けた天井）とビニール製のウォールカバーは取り除かれ、代わりに使われたスムーズな壁には、部屋に明るさを増し、透明感を与える色の塗装が施されている。また、狭かったバスルームのドアがよりゆったりと広げられたほか、ガラスのドアや窓、フレームもすべて、最新スタイルのものと取り替えられた。

「今は、ドアや窓を閉じると部屋の外の音が聞こえず、完全にプライバシーが保てます」とシャーマンさん。「風のうなりや騒音に邪魔されることはありません」

シャーマンさんはさらに、客室に関するあらゆる局面に気を配ったことを強調する。

「ラナイのタイルと家具も取り替えました。蛇口を全部、それにデスクも新調し、大きめな引き出しのドレッサーも入れたほか、光を遮断するカーテンも加えています。読書用のランプも新しくしました」

これらの計画は長い間練られていたほか、宿泊客のコメントカードからもアイデアを得たという。

開業したままで、しかも非常に忙しいホテルの改装スケジュールを立てることは容易ではない。担当したシャーマンさんは実際に、その部分が最も難しかったと認める。

「宿泊中のお客様たちの邪魔にならないようにするためには、工事の時間を制限しなければなりません。ホテルの荷下ろし場で改装に必要な材料の配達を受けるための作業では大混雑になって頭を抱えましたが、みんなが手を貸してくれたので無事に済みました」

改造計画を完成させるため、作業は1フロアずつ、平均で45日をかけて行われた。作業には各部屋を完全に仕上げるもののほか、エレベーター・ロビーや廊下など、内装空間の改装も含まれていたが、ここでもスタイルと優美さにアクセントが置かれている。

「ゆっくりと時間をかけて改装を行ったことは、成功だったと思います」とシャーマンさん。「花模様の新しいカーペットはその一例。部屋全体に、家庭的でゆったりとした雰囲気をかもしだすんです。デザインはどの部分をとっても素晴らしいし、選択も良く、それがすべて結果に表れている。部屋に入ると、気分がいいんです。昨日、廊下でお客様2人と出会ったのですが、新しい部屋がとても気に入っていると、褒めちぎっていました。結局はそれなんです。お客様から、満足していると正直な感想を聴けたときほど嬉しいことはありません」

宇宙とは変容であり、人間の生命とは思想の産物である。
マルクス・アウレリウス

ザ・カハラはこれまで40年以上にわたって世界のホテル業界の標準ともいえる役割を果たしており、21世紀の夜明けである今、高尚で卓越したホテルを目指して誓いを新たにす。立派な客室が建物の立つ土地の文化を反映し、ホテルの価値観を象徴するという信念は、創立当時から変わることがない。そして何よりも、立派な客室は、宿泊者がやすらげ、心機一転して明日を迎えることができる、くつろぎの空間をもたらす。貴方の空間に、ようこそ。